

130	82	74	69	48	45	45	24	16	15	11	3 目次	頁
本文1行 割注	本文3行	本文14行	本文7行	本文16行	本文7行	本文3行	本文8行	本文17行	本文1行	本文10 〜11行	8	行
した。 〔「中尊寺 文書」〕	律令制支配を拡大すること	一連の大群衆墳を形成	土墳墓が発見されている。土墳墓は	時代晩期中葉から	配石遺構と呼ばれる遺構が	土器群(大洞C1〜A)	形は煮炊きに適した	検証の結果、捏造は	広げたからである。	大分県聖岳洞窟遺跡のもので、ナイフ形石器や細石刃とともに頭蓋骨の破片が出土している。	三 岩出山の中世城跡	誤
した 〔中尊寺 文書〕。	律令制支配を拡大し	一連の大群集墳を形成	土坑墓が発見されている。土坑墓は	時代晩期中頃から	配石遺構が	土器群(大洞C1式〜A式)	形は煮炊きに適した	検証の結果、ねつ造は	広げた。	大分県聖岳洞窟遺跡ではナイフ形石器や細石刃と一緒に頭蓋骨の破片が出土している。	三 岩出山の中世城館	正

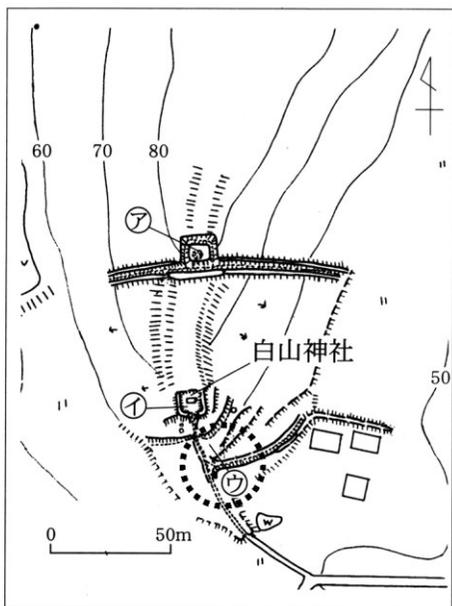
312	306	304	269	267	262	262	256	256	251	204	159	144	143	143	143	頁
本文18行	本文1行	本文10行	本文11行	本文3行	本文14行	本文1行	本文5行	本文4行	本文4行	本文10行	本文6行	本文9行	本文9行	本文2行	本文1行	行
熊谷七右衛門	賜わった(――略――)慶長	関ヶ原の戦い	弘安四年の板碑(写真48)は	県内四市一〇郡の	州の旦那を	円幢院(加美郡、	仏教を顕密仏教と呼ばれた	の理性よつては	五右衛門	鹽竈神社に	⑦の東方に	系図④には	系図④には	系図④では	椽まで七代となると	誤
熊谷七左衛門	賜わった(――略――)。慶長	関ヶ原の戦い	弘安四年の板碑(図48)は	県内七市五郡の	州の檀那を	円幢院(加美町、	仏教は顕密仏教と呼ばれた	の理性によつては	五左衛門	塩竈神社に	その東方⑦に	系図⑤には	系図⑤には	系図⑤(二四九頁・図45)では	まで七代となると	正

537	517	513	510	505	503	498	495	486	442	440	439	411	410	頁
図・22	本文13行 割注	本文13行	本文18行	表・28 38～42列	本文16行	写真・63	表・24	本文4行	本文3行	本文5行	系図	本文14行	本文4行	行
5～10年間隔で抜粋	(玉造郡仮大肝入渋谷平太 夫申上候御事「千葉家文書」)	千葉栄治	肝入を仰渡され	十瀬 栄治	玉造大肝煎	「河三平」	齋 嗣	御人足被召仕本張	嫡孫次郎三郎に	八幡神社造営に関わり	良弘 仲兵衛	各村扱免、	除屋敷五〇町歩の	誤
5～10年間隔で抜粋	(「玉造郡仮大肝入渋谷平太 夫申上候御事」千葉家文書)	千葉英治	肝入を仰せ渡され	十瀬 英治	玉造大肝入	「河三平」	齋 嗣	御人足被召仕本帳	嫡孫次郎三郎に	八幡宮造営に関わり	良弘 吉太夫	各村扱を免じられ、	除屋敷五町歩の	正

404	401	401	392	362	352	351	350	349	348	345	329	326	316	頁
本文4行	本文12行	写真・43	本文10行	本文16行	本文7行	本文14行 割注	本文11行 割注	本文18行 割注	本文10行 割注	本文4行	本文5行	本文1行	本文1行	行
舟越足軽総高	船越足軽は、舟越村に	齋 嗣	図が残っている。(図18)	須摩屋・舟越百貫夫	挨拶回り	(「齋藤家 文書」)	(「岩出山伊 達家文書」)	(中島家文書「元治元年七月宇都 宮御出張ニ付御人数御行列餉帳」)	(「有備館襖 下張文書」)	須摩屋村(大崎市松山)	この二年前、同四年二月二〇日	達も二人を	(加美町)円幢院に	誤
船越足軽総高	船越足軽は、船越村に	齋 嗣	図が残っている(図18)。	須摩屋・船越百貫夫	挨拶廻り	(齋藤庄五 郎屋文書)	(岩出山伊 達家文書)	(中島家文書「元治元年七月宇都宮 御出張ニ付御人数御行列餉帳」)	(有備館襖 下張文書)	須摩屋村(大崎市松山)	この二年前、宝永四年二月二〇日	人達も二人を	(加美町)円幢院に	正

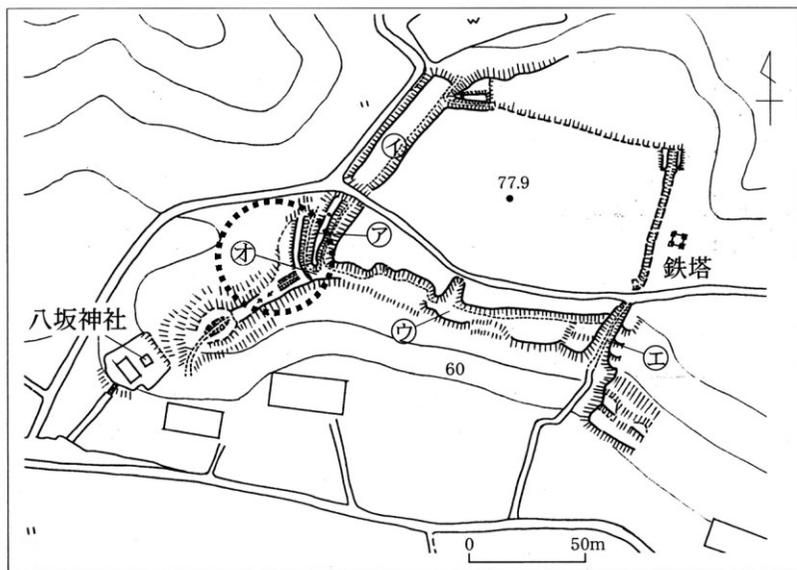
700	本文 8 行	円幢院	
700	本文 8 行	花嶽院	
685	本文 12 行	後藤吉右衛門螭伸 (一八三二) (不詳)	後藤吉右衛門螭伸 (一八三二) (不詳)
684	本文 16 行	後藤禎治郎国明 (一八三六) (不詳)	後藤禎治郎国明 (一八三六) (不詳)
682	系図	後藤玉盤国明 (一八三六) (不詳)	後藤玉盤国明 (一八三六) (一八三六) (不詳)
682	系図	後藤螭伸 (一八三二) (不詳)	後藤螭伸 (一八三二) (一八三二) (不詳)
673	本文 8 行	「北辰三天九道」の極秘について	「北辰三天九道」の極意について
660	本文 8 行	「岩出山伊達家中諸芸書上(控)」	「諸芸書上」
659	本文 9 行	「岩出山伊達家中諸芸書上(控)」	「諸芸書上」
658	本文 15 行	「諸芸道書上」中には	「諸芸書上」中には
658	本文 7 行	「諸芸伝授書上」(阿部家文書)によれば	「諸芸書上」によれば
656	本文 18 行	諸芸道書上(阿部家文書)には	諸芸道書上(「岩出山伊達家中諸芸書上」阿部家文書、以下「諸芸書上」という)には
656	本文 16 行 割注	(文化五年高橋庄作信明由緒書上)	(「文化五年高橋庄作信明由緒書上」)
	行	誤	正

656	本文 15 行 割注	(文化五年佐藤清之丞真房由緒書上「有備館襖紙文書」)	(「文化五年佐藤清之丞真房由緒書上」有備館襖下張文書)
656	本文 7 行	阿部新五郎	安部新五郎
638	本文 3 行	創設と考えたものである。	創設と考えたものであろう。
635	本文 17 行 割注	(伊藤家文書『町史』文書資料第五集)	(伊藤家文書『町史』文書資料第五集)
608	本文 13 行	「名所 つくも沢 つくも沢	「名所 つくも沢 つくも橋
593	本文 12 行	銘大壺と	銘大壺と
584	本文 15 行	(大崎市古川) 通揚焼	(大崎市古川)、通揚焼
582	表 38 の 脚注	ⅰ) 『町史文書』 ⅱ) 寛政元年・ ⅲ) 原米は・ ⅳ) 寛政元年・ ⅳ) 寛政元年・	ⅰ) 『町史文書』 ⅱ) 寛政元年・ ⅲ) 原米は・ ⅳ) 寛政元年・ ⅳ) 寛政元年・
578	本文 11 行	加美・志田・玉造・栗原五郡に	加美・志田・玉造・遠田・栗原五郡に
572	本文 10 行	御目見を仰付られ	御目見得を仰せ付けられ
556	本文 6 行	沖河原屋敷肝煎	沖川原屋敷肝入
554	本文 14 行	同村の人頭	下野目村の人頭
549	本文 4 行	下真山汀の	上真山汀の
541	本文 3 行	懸金等間違のない様	懸金等間違いのない様
	行	誤	正



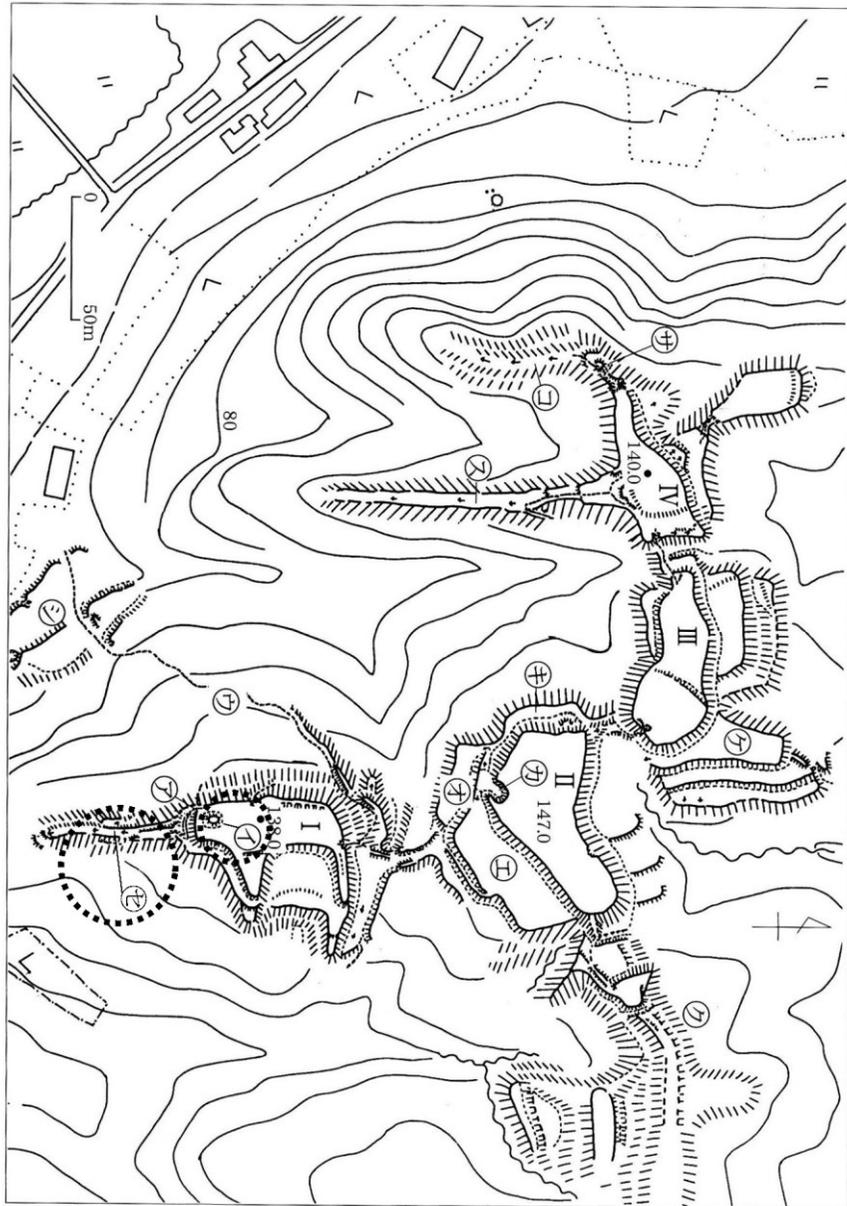
(152頁) 図-9 白山館

※図の訂正 (点線の円で囲んだ箇所)

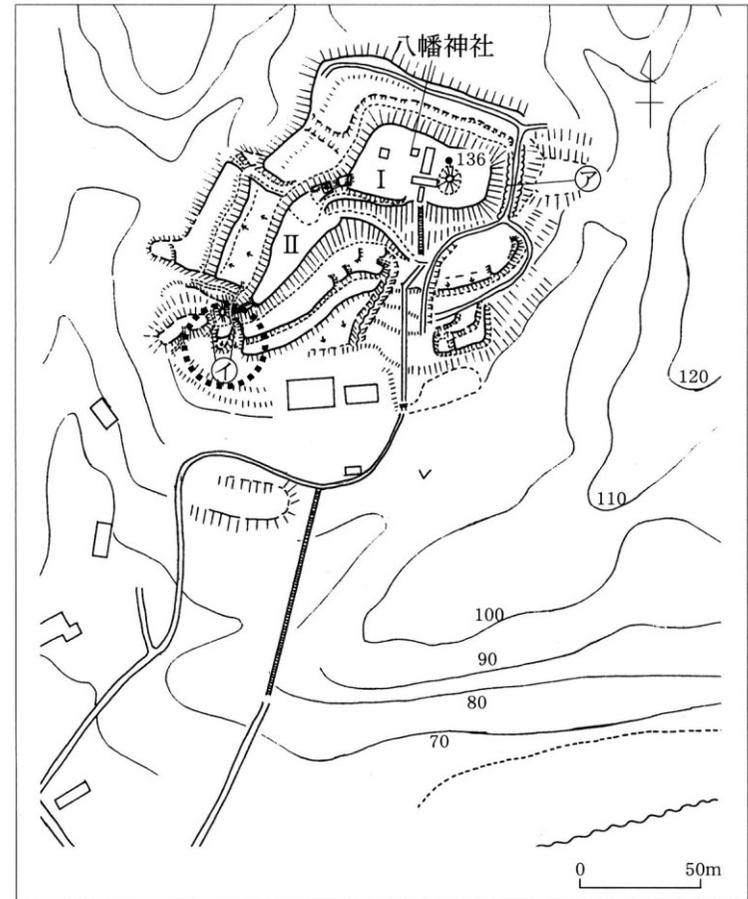


(162頁) 図-21 礪田館

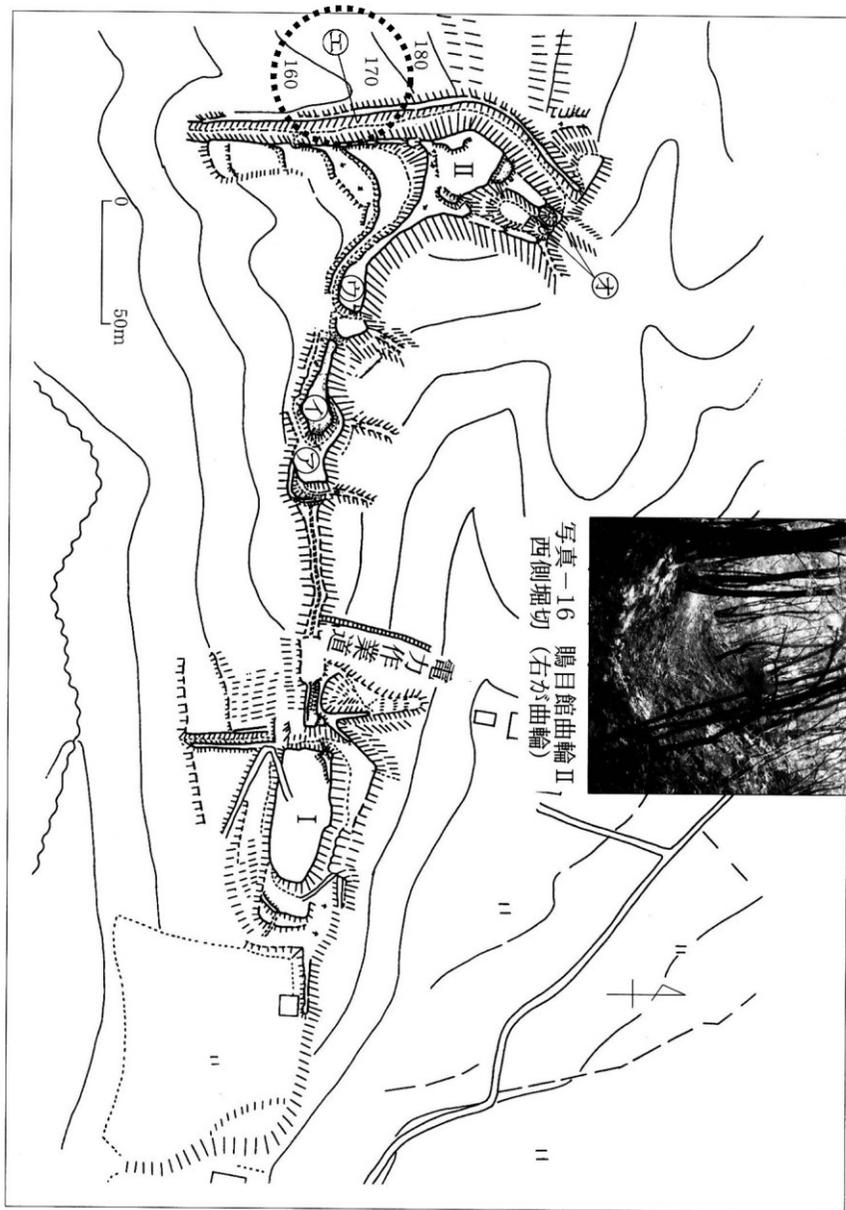
804	734	734	734	733	733	733	733	717	706	702	頁
名簿5行	本文3行	本文1行	写真・153	本文18行	本文17行	本文16行	本文16行	本文11行	写真・142	本文12行	行
冷泉貴美子	塩竈詣と並んで	「一宮塩竈月参碑」	一宮塩竈月参碑	塩竈神社に見立てて	塩竈詣も盛んに	塩竈神社は中世以来	一宮塩竈神社	葛岡村鎮守の八幡宮と	資料中	五世密厳東国の時に	誤
冷泉貴美子	塩竈詣と並んで	「一宮塩竈月参碑」	一宮塩竈月参碑	塩竈神社に見立てて	塩竈詣も盛んに	塩竈神社は中世以来	一宮塩竈神社	葛岡村鎮守の八幡神社と	資料中	五世密厳東国和尚の時に	正



(174頁) 図-31 一栗城

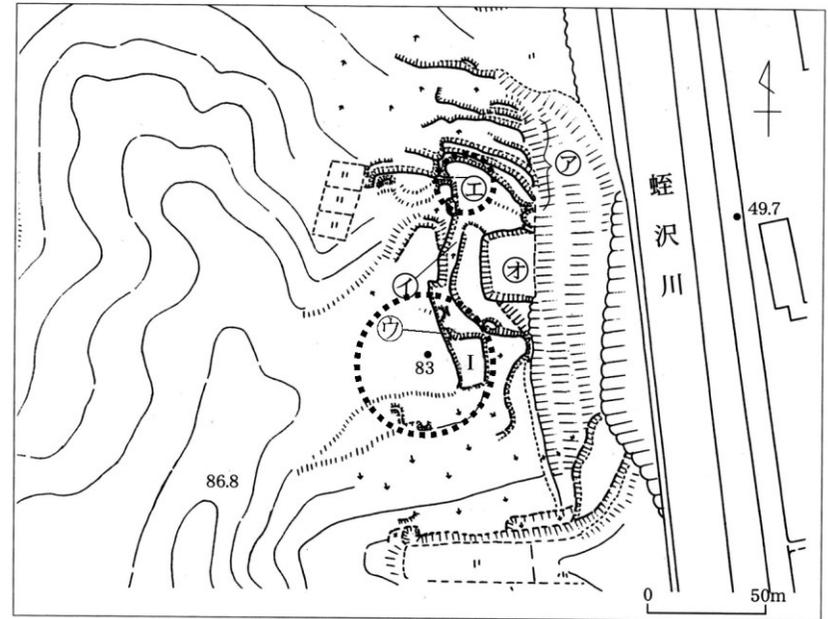


(173頁) 図-30 八幡館



(185頁)

図-39 賜目館



(183頁)

図-37 天神館